

令和 2 年 2 月 25 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 :	大阪市立本田小学校	校印
校 園 長 名 :	銭本 三千宏	
電 話 :	06-6581-1531	F A X : 06-6581-3194
事務職員名 :	喜連 尋滋	
申請者 校 園 名 :	大阪市立本田小学校	
職名・名前 :	指導教諭 今福 明	
電 話 :	06-6581-1531	F A X : 06-6581-3194

研究コース	
グループ研究B	
選定番号	217
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)	
561155	

平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇平成31年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	継続研究(2年目)
2	研究テーマ	「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の育成 ～元気・感動・仲間・成長を軸に～			
3	研究目的	従来、学校で行われる「体育科」の授業は経験と勤で行われる傾向にあった。その結果、「体育科＝体力の向上」のようにステレオタイプに捉え、「体育科」のイメージを「スポ根」に象徴されるような狭隘なイメージに捉えてしまう傾向にあると考える。しかし、本来「体育科」は体力の向上のみならず、「心と体を一体と捉え、生涯にわたって心身の健康の保持増進」をめざす教科である。新学習指導要領では、「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」という言葉で、スポーツの持つ「文化的価値」がしっかり強調されている。そこには「運動の行い方・健康・安全に対する理解」「基本的な動き方や技能」「運動や健康に関する課題の発見・解決」「楽しく明るい生活を営む態度」等多くのものが含まれているのである。そこで本研究では、新学習指導要領への移行を視野に入れ、現行の「体育科」の授業を「文化的価値」の視点から捉えなおし、児童に「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成することを目的とする。そして、長寿社会に生きる現在の児童にとって、生涯にわたる心身の健康の保持増進を実現するための素地作りとなるような授業を、本研究を通して提案したい。			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <p>4月3日 「今、求められる学びと授業づくりー逆向き設計論と授業づくり」研究目的と計画の確認 京都大学教育学部大学院准教授</p> <p>7月5日 「今、求められる学びと授業づくり」体育科授業研究会5年生器械運動領域授業(非公開)兵庫教育大学准教授</p> <p>7月23日 「パフォーマンス評価におけるルーブリックのワークショップ」兵庫教育大学准教授(非公開)</p> <p>8月1・2日 「第62回筑波学校体育研究会・夏期研修会」参加</p> <p>8月6・7日 「第63回全国小学校体育科教育研究集会・大津大会」参加</p> <p>8月7・8・9日 「第23回 体育授業研究会・愛知大会」参加</p> <p>8月19日 「東京学芸大学附属世田谷小学校教育セミナー(ARスポーツ)」参加</p> <p>9月11日 「今、求められる学びと授業づくり」体育科授業研究会4年生器械運動領域授業(非公開)京都大学教育学部大学院准教授</p> <p>9月27日 「今、求められる学びと授業づくり」体育科授業研究会3年生器械運動領域授業(非公開)日本体育大学</p> <p>10月3日 「令和元年度体育公開研究会・習志野市立津田沼小学校」参加</p> <p>10月16日 「体育科公開授業研究会」2年提案授業・師範授業「筑波大学附属小学校教諭」(公開)</p> <p>11月22日 「今、求められる学びと授業づくり」体育科授業研究会1年生ゲーム領域授業(非公開)関西学院大学教授</p> <p>12月4日 「今、求められる学びと授業づくり」体育科授業研究会6年生器械運動領域授業(非公開)京都大学教育学部大学院准教授</p> <p>1月22日 「今、求められる学びと授業づくり」授業研究会2年機械器具を使った運動遊び(非公開)関西学院大学教授</p> <p>1月31日 「体育科公開授業研究会」5年提案授業・師範授業「筑波大学附属小学校教諭」(公開)</p> <p>2月14・15日 「初等教育研究会・公開授業(筑波大学附属小学校)」参加</p> <p>2月研究のまとめ</p> <p>以上のように授業研究会や全国で行われている研究会参加を通して研究を深め、その一部は公開授業で研究成果を披露した。</p>			

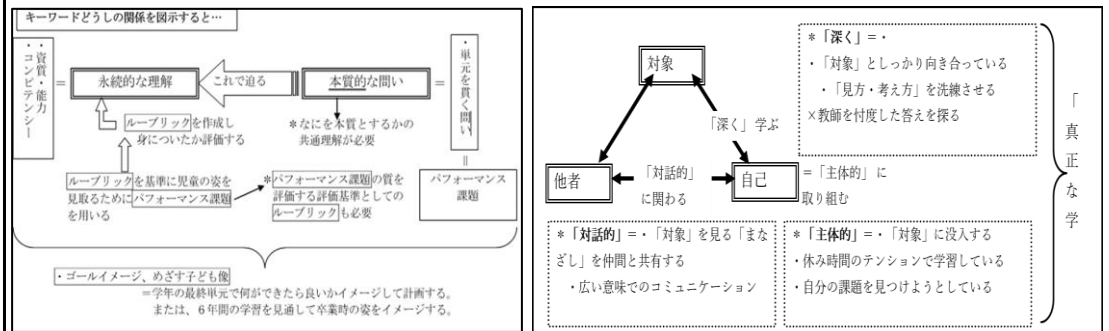
大阪市教育振興基本計画に示されている、**子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上**および**教員の資質や指導力の向上**について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。

- ・先進的な体育科の学習の在り方を指導者が学ぶことにより、体育科の授業を充実させることができた。また、児童は楽しみながら基本的な動きや技能を身に付けることができた。
- ・児童は仲間と共に運動に親しみむことで、楽しく明るい生活を営む姿勢が育まれた。
- ・各種の運動遊びや体育科授業を通して、フェアプレーを大切にする児童の育成を図ることができた。
- ・体育科授業の中で「話し合う活動」を大切にした結果、筋道を立てて練習や作戦について話し合うなど、コミュニケーション能力の育成や論理的な思考力の育成を促すことができた。
- ・保健指導や栄養指導、食育を計画的に行い、運動・食事・休養及び睡眠等についての学習を通じて、児童の健康的な生活習慣形成を図ることができた。
- ・運動や健康に関する課題を児童自らが見付け、その解決に向けて思考し判断しようとする姿勢が身に付いた。
- ・本研究の実践から、次期学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」についての具体的な授業の在り方について学ぶことができ、今後の教員の授業改善や学習指導力の向上に繋がった。

高橋らの診断的・総括的授業評価アンケート及び、形成的授業評価アンケートの実施より、児童の変容の分析した。肯定的回答児童については各項目ともに85%を超えている。
 「体育科授業では、みんなが楽しく勉強できます。(運動に親しむ)」(95%)
 「体育科授業では、どうしたら運動が上手できるかを仲間と共に考えながら勉強しています。(論理的思考)」(85%)
 「体育科授業では、自分のめあてを持って勉強します。(めあて・課題の設定)」(85%)
 「体育科授業では、いろいろな運動が上手にできるようになります。(動き・技能上達)」(88%)
 「体育科授業では、ゲームや競争をするとき、ずるいことや卑怯なことをして勝とうとは思いません。(フェアプレー)」(90%)
 という結果となった。

《まとめ》

本研究では、新学習指導要領への移行を視野に入れ、現行の「体育科」の授業を「文化的価値」の視点から捉え直すことにも取り組んだ。体育科の授業を「運動の行い方・健康・安全に対する理解」「基本的な動き方や技能」「運動や健康に関する課題の発見・解決」「楽しく明るい生活を営む態度」等多くの学習すべき要素が含まれているとみることで、児童に「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の基礎を築くことを目的として、授業を考えてきた。「豊かなスポーツライフ」を実現するために、長寿社会に生きる現在の児童にとつての必要な学習内容を設定することは、逆向き設計論での「本質的問い」や「永続的理解」を考えるとから始める授業づくりによって迫られたのではないかと考えている。本研究のキーワードを図示すると以下のような関係になるとまとめた。また、「主体的・対話的で深い学び」が体育科の学習の中では、「自己」「他者」「対象」という3軸の関係の中で行われていく。体育科での「対象」とは、運動そのものや授業で扱う教材であり、「他者」とは活動グループのメンバーだけでなく、他の児童・指導者・地域の方・保護者等、自分以外全ての人物を指す。学習指導要領(平成29年告示)では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を推進することが求められている。つまり、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を通して、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養を達成することが、「どのように学ぶか」という「学びの姿」の1つだと考え、以上の事柄を下記のような関係にまとめた。



【キーワードどうしの関係性】 【「主体的・対話的で深い学び」と学習の三軸】

《課題》

本研究を通して、「何を学ぶのか」「深く学ぶとはどういうことか」について、考えることができた。時期指導要領では各教科の見方・考え方が示されている。来年度は資質能力の3本柱と体育科の見方・考え方との関係性や、見方・考え方が体育科の究極的な目標である「豊かなスポーツライフ」とどのようにつながるかを探っていきたい。

5 成果・課題

6 研究発表等の日程・場所・参加者数

研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。

日程	元 年 10 月 16 日	参加者数	約 30 名
日程	2 年 1 月 31 日	参加者数	約 22 名
場所	大阪市立本田小学校		
備考			